

‘平成30年’サケ缶詰の本格生産が開始され、今年で108年目

サケ缶詰の歩み

日本における缶詰の歴史は北海道に開拓使が置かれて間もなくの1877（明治10）年、札幌市の北、石狩市に、わが国初の缶詰工場、開拓使石狩缶詰所を設置したのをルーツとし、豊富な水産資源（サケ・マス等）を原料にした缶詰が北海道内いたるところで製造されていました。1910年（明治43年）『提商会（後の日魯漁業株）、現在のマルハニチロ株』が商業生産を始めて108年を迎えました。まさに日本のサケ・マス漁の歩みとも言えます。北海道の開拓以来、サケと共に生きた日本人の誇りと意地、情熱がこの缶詰の中に詰まっています。



サケ・マス船団見送風景（昭和38年）
釧路市 提供



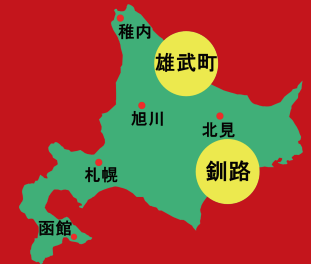
昭和28年9月 日魯漁業株式会社釧路罐詰工場
(株)マルハニチロ北日本 提供



原料供給元：雄武漁業協同組合
雄武漁業共同組合 提供



製造元：株式会社マルハニチロ北日本釧路工場
(株)マルハニチロ北日本 提供



北海道雄武産鮭缶詰

おうむ

水煮・筍煮・大根煮



〜北洋の海にかける想い〜

平成30年 北海道命名150年 記念商品

原料供給元：(株)雄武漁業協同組合

製造所：株式会社マルハニチロ北日本 釧路工場

販売者：国分北海道株式会社

お問い合わせ先：国分北海道株式会社 マーケティング部事業開発課

TEL 011-350-6309 / FAX 011-350-6326

平日9：00～17：00（土、日、祝日除く）